
エリート監督

神谷コウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エリート監督

【Nコード】

N0258Q

【作者名】

神谷コウ

【あらすじ】

かつてエリート監督と呼ばれた黒川勉が弱小高校野球部の監督になり甲子園を目指す。しかし、そこには甲子園を目指す以上に、学校運営の運命を賭けた壮絶な戦いであることを知らされる……。

監督就任、そして・・・

「ここが交星高校か。」

黒川はそう言いながら交星高校の正門をくぐり、4Fにある理事長室へと向かった。

黒川勉は元名門野球部の監督で甲子園にも何度も出場しており、高校野球の世界では「エリート監督」との異名をもっている。しかし、当時野球部内での喫煙問題、上級生による下級生のイジメが発覚し、監督を解任されていた。長らく野球から遠ざかっていたが、古くからの友人である交星高校理事長の柏木太郎かしわぎたろうから野球部の監督をやらなにか？との誘いを受けていた。

理事長室へ向かう途中、解任された当時のことを思い出していた。なぜ、もっと生徒を見てやれなかったのだろう。私は生徒に野球を教えていた。ただ、それだけだった。そのような気持ちも抱えたまま理事長室の前に着いた。

「コン、コン、コン」黒川はドアをノックした。

「黒川君、よくきてくれたね。そのソファ―に座ってくれたまえ。」

「はい。」黒川は腰をおろした。

しばらくすると、秘書らしき女性がお茶を入れてもってきた。

「この間の件だが、引き受けてくれるね。」

「柏木さん、私が3年前解任されたことはご存じですよね。」

「知ってるよ。ただ私は君の監督として能力を高く評価している。」

「このお話を頂いた時、正直嬉しく思いました。しかし、私でいいのかとも思ってます。」

「君にしかできない仕事だ。交星高校を救ってほしい。」柏木は少し強めの口調で答えた。

救って欲しい？黒川は何か違和感見たいなものを感じたが、監督を心良く引き受けた。

その時はまだこの監督就任がどういうことなのか黒川は知るはずもなかった……。

監督就任、そして・・・（後書き）

感想お待ちしております。

まさかの野球部員

「声出していこーぜー！」長方形の広いグラウンドで高校球児の声が響く。

黒川はグラウンドに着いた。野球部を見るためだ。

正式に野球部を指揮するのは3か月後の4月からではあったが、今の実力をいち早く見ておきたかったのだ。

「誰だこのおっさん、勝手に入ってくんじゃねーよ。」と金髪の野球部員の一人が黒川を見て言った。

黒川は目を丸くした。それは高校球児たる真摯さたるものがまったくなかつたからだ。そして、高校球児たるもの皆坊主だと思っただからだった。

それを見たもう一人の黒髪の野球部員が言った。

「伸二、言葉を慎め。エリート監督の黒川先生ですよね？」

「そうだが。今年の4月から正式に君たち野球部の監督になるわけだが皆を集めてくれないか？」と黒髪の野球部員に伝えた。

そうすると、皆を集め、これから野球部を指揮すること、簡単な自己紹介を済ませた。野球部員の顔からはなぜこんな凄い人がウチの監督になるんだ。と驚いた様子であった。

「皆のこと、この野球部のことを少しでも知りたいのだが、教えてくれるね。」黒川は淡々と言った。

黒髪の子が新見遼介^{にいみりょうすけ}、金髪の子が竹谷伸二^{たけやしんじ}。

そして驚いたことに野球部は昨年創部したばかりだということを知った。部員はちょうど9名。創部1年目の夏の大会では初戦敗退だが秋の大会は見事1勝をしている。エースで4番、キャプテンの新見遼介2年生の活躍である。中学時代は全国大会にも出場しており実力はあるようだ。しかし、他の子に關しては高校から野球を始めたものおり、到底甲子園を目指せるとはお世辞でも言えないようなレベルであった。

そのような状況を見た黒川の素直な感想としては、これからどれだけ鍛えても甲子園に行くことなどないだろうと思っていた。しかし、甲子園に行くことが私の使命でもある。まあいいだろう。今は1月だ。今年の春になれば新入生も入ってくる。

そこからが私の再スタートでもあるのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0258q/>

エリート監督

2011年1月12日21時23分発行